



[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2008年7月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

財団法人日本太鼓連盟 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:http://www.nippon-taiko.or.jp Email:info@nippon-taiko.or.jp

会報

就任のごあいさつ



財団法人日本太鼓連盟

会長 まつもと ひであき
松本 英昭

太鼓関係者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

去る6月13日に開催されました第22回理事会において紀内隆宏会長の後任の会長に選任されました。

財団法人日本太鼓連盟は、1997年に設立され、昨年10年の節目を迎え、今年11年目となります。今日の組織は、41都道府県に45支部が設置され、加盟800団体、会員総数2万2千人を擁するまでにりました。

これもひとえに会員の皆様のご協力と日本財団をはじめとする関係団体のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

加えて、日本の心を伝える太鼓は、海外においても急速に普及しておりアメリカ、ブラジル、台湾のそれぞれに太鼓の組織が設立されていると伺っております。先月実施されたブラジルでの「日本移民100周年記念式典」では、現地日系人を中心とした1,200人の奏者による合同演奏が立派に行われたということで大変うれしく思っております。

日本太鼓は、日本の伝統音楽として、また郷土に根ざした芸能として地域社会に親しまれ受け継がれております。近年は、老若男女を問わず広く受け入れられるとともに、健常者のみならず障害者による

太鼓チームも数多く誕生しております。

日本太鼓がこのように国の内外を問わず脚光を浴びる中、当財団の運営も国内のみならず海外の愛好者も視野に入れた上で、支部・加盟団体・会員の皆様とさらに緊密な連携を図りながら次のことを主眼として日本太鼓のさらなる普及、発展を図っていきたく存じます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

1. 全国47都道府県の支部開設を目指し、未開設の6県の支部設立に努める。
2. 文部科学省の「学習指導要領」の改正により、中学校・高等学校で音楽教育に日本太鼓等の和楽器教育が取り入れられている。このため、教育委員会や支部の協力のもと、生徒児童への普及をさらに図るとともに、さらに全国的に教職員太鼓研修会の実施に努める。
3. 海外公演や海外講習会の実施により、海外との交流を深め、当財団の拠点づくりに努める。
4. 当財団主催の日本太鼓全国フェスティバル、全国障害者大会、ジュニアコンクール、シニアコンクール、チャリティコンサートについては、多くの人達の意見を聴き愛好者の要請に応える内容の開催に努める。

【略歴】

- 1964年 東京大学法学部卒・自治省に入省
1990年 同 大臣官房審議官
1995年 同 行政局長
1998年 同 事務次官
2006年 地方公務員共済組合連合会理事長

社会福祉法人日本国際社会事業団の共催を得て 第12回日本太鼓チャリティコンサートを開催



(共催者の活動内容のパネルを見るお客様)

6月3日(火)、第12回日本太鼓チャリティコンサートを草月ホール(東京都港区)で開催いたしました。

このコンサートは日本財団の助成事業として行われ、今回は社会福祉法人日本国際社会事業団の共催を得て、実施いたしました。日本国際社会事業団は“国境を越えて愛の手を”をモットーに、子どもの福祉を中心に、2カ国以上にまたがる福祉や人権の問題を抱えて悩む人々のために、国籍・宗教・慣習などを越え、世界的なネットワークを持って援助活動を行っています。会場には日本国際社会事業団の活動内容を紹介するパネルが展示されました。国際養子縁組についての活動等がわかりやすいイラストと共に紹介され、国境を越えた家族についてのパネルに多くのお客様の関心が集まりました。

各国の在日大使、政・官・財界及び各分野で活躍されている約300名の方々にご出席頂きました。

開演に先立ち、主催者を代表して塩見和子理事長、共催者を代表して日本国際社会事業団大森常務理事よりご挨拶の後、当財団加盟800団体から選ばれた5団体に加え、3月に開催された第10回日本太鼓ジュニアコンクール優勝チームの合計6団体による演奏が行われました。

まず、「岩舟武蔵太鼓」(栃木県)が10～59才までの幅広い年齢層のメンバーが織り成す和を太鼓演奏



(「新潟万代太鼓神龍会」の演奏)

で表現したのを皮切りに、「まむれ太鼓」(群馬県)は創設者の故島田明子代表の遺志を受け継ぎ、女性ならではの華やかな太鼓を演奏、対照的に「五竜太鼓保存会」(静岡県)は太鼓の迫力溢れる演奏で観客を圧倒。次は本年ジュニアコンクール優勝チーム「橘太鼓響座ジュニア」(宮崎県)の元気いっぱいの太鼓で、見ている観客に楽しさが伝わってくるような演奏でした。「新潟万代太鼓神龍会」(新潟県)は長い伝統を感じさせる「樽砦」を取り入れた郷土色あふれる曲想の神楽太鼓を演奏しました。最後は4月に発足した岡山県支部より「倉敷天領太鼓」がフィナーレを飾りました。まずは笛のみの演奏で始まり、力強い太鼓の演奏が、観客を魅了しました。

すべての出演チームがそれぞれの特色を活かしたひたむきな太鼓演奏を披露し、観客からは惜しめない拍手が贈られました。最後は出演者全員が舞台上がり、お客様とともに手締めで締めくくりとなりました。これは出演者とお客様とが一体感を感じられると評判の当財団恒例の手締めです。

コンサート終了後には、帰路に着くお客様のために全団体が通路に並び、会場出口では「橘太鼓響座ジュニア」の粋な演奏でお見送りしました。

皆様のご協力により、1,228,000円の募金が集まり、全額を日本国際社会事業団にお渡しいたしました。福祉や人権の問題を抱えて悩む人々のための援助活動に役立てていただきます。ご来場頂いた皆様には心より感謝申し上げます。



(フィナーレ)

<出演団体>

岩舟武蔵太鼓(栃木)

まむれ太鼓(群馬)

五竜太鼓保存会(静岡)

橘太鼓響座ジュニア(宮崎)

*第10回日本太鼓ジュニアコンクール優勝チーム

新潟万代太鼓神龍会(新潟)

倉敷天領太鼓(岡山)

宮城で全国講習会・道東で支部講習会を開催



(開会式で挨拶する久保支部長)

<第32回日本太鼓全国講習会(宮城)>

5月31日・6月1日(土日)、宮城県支部主管の全国講習会を、七ヶ浜町町民体育館にて実施いたしました。地元宮城県をはじめ、全国19都府県から約110名が参加しました。

開会式では、財団を代表して塩見理事長、宮城県支部を代表して久保支部長、地元七ヶ浜町より平副町長と教育委員会の中津川教育長よりそれぞれ励ましと歓迎の挨拶がありました。開会式では、舞台上で専門講座の模範演奏があり、受講生たちはそれぞれのすばらしい演奏に、感動した様子でした。初夏の宮城で、受講生は熱心に指導を受けていました。

<第39回日本太鼓支部講習会(道東)>

6月7・8日(土日)、北海道道東支部主催で6年振りとなる支部講習会が釧路市生涯学習センター(北海道釧路市)で行われ、4・5級基本講座に地元釧路市をはじめ、北海道から36名が参加しました。開会式では北海道道東支部貝塚支部長より歓迎の挨拶がありました。初日の朝には、釧路市特有の霧がかかっていましたが、受講生達の太鼓の音が、霧をも吹き飛ばし、午後には青空となりました。

○基本講座 講師

総合指導 古屋 邦夫氏
3級基本講座 鈴木 孝喜氏
4級基本講座 渡辺徳太郎氏
5級基本講座 松枝 明美氏

○専門講座 講師

大太鼓講座 山内 強嗣氏(静岡県)
秩父屋台囃子講座 高野 右吉氏(埼玉県)
八丈太鼓講座 菊池 修氏(東京都)

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

1級検定	16名受験	4名認定(7名合格)
2級検定	15名受験	4名認定(9名合格)
3級検定	12名受験	12名合格
4級検定	19名受験	19名合格
5級検定	18名受験	18名合格



(開会式で挨拶する貝塚支部長)

○基本講座 講師

総合指導兼4級基本講座 古屋 邦夫氏
5級基本講座 渡辺 洋一氏、塚原 鼓童氏

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

4級検定	8名受験	8名合格
5級検定	28名受験	28名合格

台湾で日本太鼓全国講習会を開催

6月28・29日(土日)、台湾にて台湾太鼓協会発足以後、第2回目となる全国講習会が開催され、3・4・5級基本講座に総勢133名が参加しました。

受講生は一言も聞きもらすまいと熱心に講師の話に耳をかたむけ、一生懸命パチをふっていました。

模範演奏を開会式で披露した講師の方々へのお礼として、閉会式では受講生がそれぞれのチームの太鼓曲を演奏しました。

○講師 渡辺徳太郎氏、高島奈々氏、高島笑美氏

○補助講師 吉岡賢次氏

◇技術認定員検定の結果は次の通りです。

3級基本講座	11名受験	11名合格
4級基本講座	14名受験	14名合格
5級基本講座	108名受験	108名合格

□現在の台湾での資格認定員数(6月末時点)

3級技術認定員	11名
4級技術認定員	17名
5級技術認定員	137名
取得者合計	165名



(受講生の演奏)

ブラジル太鼓公演

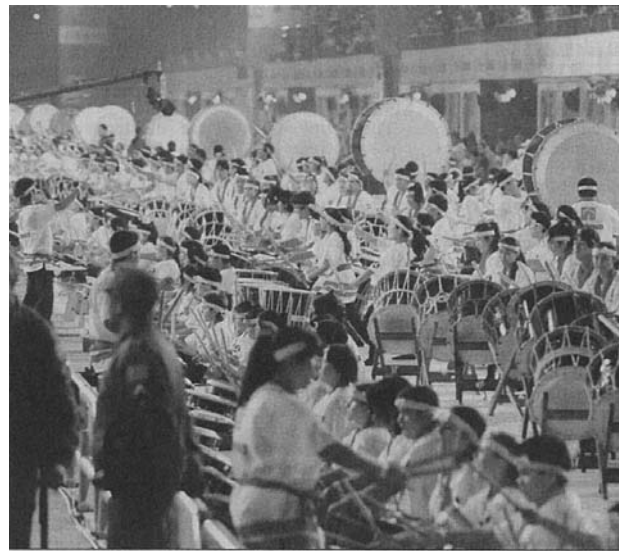
～5年間の集大成!! ブラジル移民100周年記念式典出席～

6月16日から24日にかけて、ブラジルのサンパウロ市に太鼓集団天邪鬼(東京都)を派遣しました。これは、日本人ブラジル移民100周年を記念してサンパウロ市において記念式典が行われることとなり、この式典に、ブラジル太鼓協会が1,000人太鼓を演奏するため、同協会の依頼を受けて協力することとしたのがきっかけです。

100周年記念事業として行われた天邪鬼公演では2,000名を超える観客が集まり大盛況の内に終了しました。また、小口大八副会長と天邪鬼代表である渡辺洋一氏の合作による「絆」はサンパウロのサンバ会場550mが1,200名の太鼓メンバーで埋まり、皇太子殿下のご臨席の下、心を一つにした最高の演奏を披露することができました。演奏終了後、観客は総立ちとなり、拍手が鳴り止みませんでした。

皇太子殿下のご到着を待っていたかのように雨も上がり、日がさす中での素晴らしい祭典でした。

紙面の都合上、ブラジル太鼓公演関連の記事は引き続き次号(10月発行)で掲載させていただきます。



For immigrants, the beat goes on

(The Asahi Shimbun 2008.6.23 掲載記事より)

猪越三郎氏が旭日小綬章を受章

当財団福島県支部の猪越支部長が、春の叙勲で旭日小綬章を受章されました。これは、昭和38年片平村議会議員に、昭和40年には郡山市との合併により郡山市市議会議員として当選、以来9期36年にわたり議会議員として市制に参画した地方自治の功労を高く評価されたものです。猪越支部長は「岩代國郡山うねめ太鼓保存会」の会長を長年務められ、ジュニアチームの「小若組」は、日本太鼓ジュニアコンクールで準優勝も果たしています。心よりお祝い申し上げます。



今年も成田太鼓祭に参加 ～全国太鼓情報発信基地に多くのお客様～

4月12・13日(土日)、千葉県成田市において「成田太鼓祭」が開催され、昨年に引き続き千葉県支部、千葉県太鼓連盟が主催、当財団が共催で「全国太鼓情報発信基地」のブースを設け太鼓を広く紹介しました。

今年は太鼓祭としては20周年、成田山開基1070年、成田国際空港開港30周年と、大きな節目の年であり、当財団の塩見理事長が12日(土)に行われた成田山千年夜舞台を視察され、挨拶をしました。情報発信基地では、パネルを展示したほか、浅野太鼓のご協力を得て、2.5尺の大太鼓をお客様に実際に叩いてもらうコーナーを設けたり、太鼓連盟のチラシを配布するなどし、8,332人の来場がありました。山道は大勢の観光客でひしめきあっていました。

成田空港に近いこともあり、海外からのお客様も多く見えていました。



(活動パネルを熱心に見るお客様)

第10回日本太鼓ジュニアコンクール感想文紹介

第10回日本太鼓ジュニアコンクールで優勝した「橘太鼓響座ジュニア」から感想文が届きました。



(塩見理事長から賞状を受け取る「橘太鼓響座ジュニア」)

「昨年のリベンジ」

岩切 響一 (リーダー)

昨年の「第9回日本太鼓ジュニアコンクール」に出場した時、僕たちは全国のレベルの高さを思い知りました。昨年も自分たちなりの優勝できるような練習をしました。結果は狙っていた優勝ではなく、特別賞でした。特別賞もすばらしい賞なのですが、優勝ではなかったのも心の底からは喜ばませんでした。

その悔しい思いを心に刻み、今年はどこにも負けないくらいの、日本一の練習をしてきました。練習をやりたくないと思ったことは何度もありました。だけど、きつい練習をのり越えればきっと結果もついてくると思いがばってきました。

そしてむかえたジュニアコンクールの日は、緊張というよりは早く僕たちの太鼓をみんなに聴いてほしいという感じでした。そんな気持ちで演奏しました。今までで最高の演奏ができたと思っていたと僕は思いました。だけど、結果がどうであれ、いい演奏だったからいいという気持ちではなく、「優勝しなきゃ今までがばってきか意味がない。」そんな気持ちでした。

そしてとうとう結果発表の時がきました。他のチームがどんどん呼ばれていくたびに、緊張していきました。そして、とうとう優勝の発表。今までで一番緊張しました。「優勝は……宮崎県代表橘太鼓響座ジュニアです。」それを言われた瞬間、僕はこれまでの苦労を思い出しました。「あれだけ練習してきた本当に良かった。」そう思いました。そして同時に感謝の気持ちで一杯になりました。指導をしていただいた先生方。石川県まで太鼓を運んでいただいた太鼓研修センターの先生方。保護者の方々への感謝の気持ちでいっぱいでした。

優勝は、僕たちだけではできなかつたと思います。その感謝の気持ちを忘れずに、これからさらに練習を重ね、自分たちだけが満足する演奏ではなく、一人でも多くのお客様からたくさんの拍手をもらえるような太鼓を叩いていきたいです。

「日本太鼓ジュニアコンクールを終えて」

宮原 直樹 (サブリーダー)

3月23日、石川県で第10回日本太鼓ジュニアコンクールが開催されました。この日のために私たちは、毎日厳しい練習を頑張ってきました。大会当日はとても緊張しましたが、日本一の練習をしてきたことを自信にし、見ている人に感動を与えられるような演奏をしようと決めました。

私たちの演奏は、演奏時間が他のチームより少し速かったけど、メンバー全員が心をひとつにして演奏できたのでとってもよかったです。また、演奏の途中で観客の皆様が大きな拍手をくださったのでとても嬉しかったです。

そして閉会式。渡辺審査員、塩見審査委員長より講評をいただいた後、審査結果が発表されました。5位から2位、特別賞の発表が終わったあと、いよいよ優勝チームの発表となりました。「優勝は……宮崎県代表橘太鼓響座ジュニアの皆さんです。」優勝が発表された瞬間、会場からは歓声が沸き起こりました。優勝できてとてもうれしかったです。今までの努力が実ったのだと思いました。

最後に、私たちを応援して下さいました皆様、本当にありがとうございました。沢山の支えがあったからこそ、優勝できたのだと思います。この感謝の気持ちをいつまでも忘れず、これからも頑張っていきたいと思います。

「感動の日本一」

山床 海 (メンバー)

「優勝は、宮崎県代表 橘太鼓響座ジュニア」その瞬間、応援に駆けつけてくれた人達の声が僕の耳に響き渡りました。そして、いろんな思いがこみ上げてきました。

毎日6時半からの練習。車で連れて来てくれる父や母。太鼓を教えてくださいました先生。陰で見守ってくれた祖父と祖母、友達。そして、一番寂しい思いをさせた弟。みんなの支えで優勝できたのだと思うと涙がこぼれそうでした。だけど、メンバーの顔を見るとみんな笑顔ですごくかっこ良く立っていました。だから僕も日本一になったんだと胸を張ることができました。

今まで本当に頑張りました。本当に日本一練習しました。本当に厳しくて大変でした。でもその中にたくさんの笑いや感動がありました。僕は太鼓が大好きです。日本一におごることなく、進化していこうと思います。応援ありがとうございました。

ブラジル太鼓チーム「イビウナ龍舞太鼓」感想文紹介

第10回日本太鼓ジュニアコンクールで特別演奏を行ったブラジル太鼓チーム「イビウナ龍舞太鼓」から感想文が届きました。一部抜粋してご紹介いたします。

代表 高野信太郎

ジュニアコンクールのリハーサルで子ども達は初めて日本の太鼓を打ちました。ブラジルの太鼓と比べるととても素晴らしいと感じました。また、ブラジルでは長胴太鼓が少ないので日本で打つ事が出来たのは大きな喜びでした。リハーサルを見てやはり日本のチームのレベルの高さはすごいと感心しました。まだまだ私たちは日本の太鼓に関して学ぶ事がいっぱいあります。

ホテルで一緒になった「おおむら太鼓くじら太鼓」と交流できたのは、子供達にとって一番良い経験だったと思います。少しでも覚えた日本語を使って話せることが出来て、友達を作ってすごくいい思い出になりました。日本のチームと交流出来るかと私は一番心配でしたが、コミュニケーション出来たのがとても嬉しかったです。

日本全国から来たジュニアチームの技術と礼儀は素晴らしいものでした。私が感動したのは会場に対し子ども達が大きな声で挨拶すること、そしてお客様が演奏終了まで静かだったことでした。この日本で一番大きな太鼓イベントのために120人ものボランティアの方がいて、色々と説明していただきました。時間をきっちり守る事には本当に感心しました。43チームの素晴らしい演奏が終わり、いよいよ私たちの出番となって「大自然」の演奏が出来、感動と感動で胸がいっぱいになりました。

翌日、渡辺洋一先生からの特別講習を受け、「大自然」をより良くしていただきました。今後、技術を高めていくために、とても良い勉強になりました。

長野県では御諏訪太鼓の小口大八先生に会うことが出来ました。今回ブラジル日本移民百年祭に先生が作曲された「絆」を私たちが初めて先生の前で演奏させていただきました。先生の話聞いて日本の伝統文化を守ることやブラジルと日本との交流をこれからも続けて行くことが私たちの大きな目標だと思いました。

長野県諏訪市と群馬県太田市のブラジル日系人学校で演奏をしたときは、私たちがブラジルで太鼓を頑張っ、こうして日本まで来る事が出来たと伝えられて本当に嬉しく思いました。

この度、日本財団と日本太鼓連盟の皆様には10日間本当に親切にいただき、心から感謝申し上げます。このご恩は一生忘れることなくブラジルの太鼓と子ども達のために頑張りたいと思います。

リーダー 山下明美アリネ

この旅で一番うれしかったのは日本のジュニアコンクールに参加した事と「おおむらくじら太鼓」のチームと知り合った事、浅野太鼓と御諏訪太鼓に

行って見学をし、渡辺先生と授業をしたことです。

日本太鼓ジュニアコンクールに参加してすばらしいチームを見ました。そしてそのチームに小さな子供がいてとても上手に太鼓をやっているのを見て感心しました。ブラジル全伯大会には小さな子供がほとんど参加しないからです。そして日本の太鼓コンクールでは皆時間を守るし、あいさつも皆にして、コンクールが終わったら皆スタッフのみなさまに「ありがとう」を言って、日本の教育は本当に最高だと思いました。

「おおむらくじら太鼓」と初めて夕食した時、皆恥ずかしくてあまり話をしなかったけど、だんだん話し始め友達になりました。そしてサンバの踊り、コップのゲームを教えて遊んだり、ソーラン節をおどり、私たちはピンバッジを贈り、くじら太鼓から髪止めのゴムをもらって、夕食はみんなにぎやかでおもしろかったです。そしてブラジルに帰ってもメールや手紙で話ができうれしいです。

御諏訪太鼓にも行って、私たちのオリジナル曲「大自然」と100周年のために演奏する曲、「絆」を演奏しました。そして小口大八先生から色々な国の楽器を見せてもらいました。そして先生から記念としてサイン入りの太鼓の皮をもらいました。私たちのために特別に作ったといわれ、皆本当にうれしかったです。今、私達の太鼓の練習場にかざっています。

私達の希望や夢をかなえるのに、太鼓連盟や財団の皆様が一生懸命世話をしてくれ、雪がある所を探してくれました。皆、雪を見ることができて大はしゃぎでした。そして東京タワー、ディズニールンド、本屋、100円ショップ、デパート、夜には散歩をしたり、桜の花を見たり、色々なことをしました。日本で色々な事を覚え、ブラジルに帰って皆に伝えたいと思っています。

日本行きは私達にとって良いことばかりで最高の旅でした。お世話になった皆様に心から感謝します。ありがとうございました。



(初めての雪に喜ぶ「イビウナ龍舞太鼓」の皆さん)

各種会議を開催

～理事会・評議員会・運営委員会・技術委員会・代議員会～

＜理事会・評議員会＞

第22回理事会・第21回評議員会が6月13日に開催され、次の事項が審議された。

1. 「2007年度事業報告及び決算について」
2. 「役員改選に伴う会長、副会長、理事長、常務理事の選任について」
3. 「支部の開設について」

＜運営委員会・技術委員会＞

第36回運営委員会・第31回技術委員会が7月4日に開催され、次の事項が審議された。

1. 「2007年度事業について」
2. 「2008年度事業について」
 - ①2008年度事業実施状況について
 - ②ジュニアコンクールの出場団体数について
31団体以上の出場があった場合は3団体の出場を認めることについて審議を求めたところ、全員一致で承認された。
 - ③助成金交付事業の決定(第3次)について
第3次となる助成金の申請内容について説明し、審議の結果、6事業を承認した。

3. 「日本太鼓資格認定制度について」

①公認指導員の昇級と認定について

- ・1級公認指導員への昇級候補、河合睦夫氏(富山県)、蓑輪敏泰氏(宮崎県)、吉岡賢次氏(兵庫県)、3級公認指導員への昇級候補、中野千恵子氏(静岡県)、野方嘉孝氏(佐賀県)、蓑輪真弥氏(宮崎県)について審議の結果、昇級を承認された。
- ・富山県支部並びに北海道道東支部より、推薦のガイドラインに達していなかった指導実績が満たされたことから3級公認指導員に推薦のあった熊野誠氏(富山県)、田中宏明氏(北海道)、遠藤睦男氏(北海道)については全国講習会並びに支部講習会において指導力を確認したため、承認することとした。

＜代議員会＞

第11回代議員会が7月4日に開催され、次の事項が審議された。

1. 「2007年度事業報告並びに決算報告について」
2. 「2008年度事業計画並びに収支予算について」

訃 報

当財団副会長で御諏訪太鼓宗家の小口大八氏が6月27日(金)午前6時22分、前日の夕刻に遭遇された交通事故により入院されていた諏訪赤十字病院においてご逝去されました。太鼓にかけた84歳とは思えぬ若さ溢れる演奏を拝見することは、もはや叶わぬこととなり、悲しくもあり悔しい思いをされている方も多くいらっしゃるかと存じます。

葬儀は財団葬として8月6日(水)15時よりジョイント・プラザ・マリオ(長野県岡谷市長地権現町3-2-45 TEL0266-28-8740)にて執り行います。詳細は当財団事務局までお問い合わせください。

*ご参列の際には、各支部(団体)の法被をご着用願います。

*小口大八氏の追悼号は別途発行いたします。



事務局だより

日本太鼓助成金交付事業の追加募集の結果

7月4日の第36回運営委員会において、下記6事業を追加決定いたしました。報告書受理後、助成金20万円が交付されます。

1. 8月9日(土) 秋田県教職員太鼓研修会 秋田県支部
2. 9月28日(日) 第17回東北太鼓フェスティバル&第16回青森県太鼓フェスティバル 青森県支部
3. 10月13日(月祝) 第1回大阪府日本太鼓フェスティバル 大阪府支部
4. 11月29日(土) 日本太鼓ジュニアコンクール茨城県予選(第5回茨城県太鼓祭り) 茨城県支部
5. 11月30日(日) 第1回和太鼓フェスティバル 徳島県支部
6. 2009年1月12日(月祝) 第2回関八州太鼓まつり 千葉県支部

*2009年度の助成金交付事業申請を受け付けております。1事業助成金20万円、募集は全35事業です。

締め切りは12月末日必着です。詳細は、財団事務局(03-6229-5577)までお問い合わせください。

本年4月1日付で新設された3支部よりご挨拶をいただきました。

大阪府支部

岡田 博勝支部長（和太鼓鼓粋代表）

日本太鼓全国講習会に参加する度に、大阪府支部設立の要請を受けておりましたが、本年4月に念願の大阪府支部を設立することができました。3年前に大阪府内の3チームが京都府支部に所属し、大阪府内のチームに声を掛けてまいりましたが、なかなか設立までには至りませんでした。

当支部は現在8団体で構成されており、ハンディのあるチームが4団体と健常者のチームが4団体で、各チームがお互いに協力しながら支部を盛り上げたいと考えております。

また、富治林京都府支部長や兵庫県の吉岡さんには大変お世話になりました。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

＜加盟団体8チーム・会員数120名＞

豊里学園和太鼓鼓粋、るんびに太鼓、金光藤蔭高等学校和太鼓部「鼓響」、豊中ろう和太鼓クラブ鼓響、和太鼓響学館、和太鼓鼓粋、視聴覚二重障害者福祉センター「すまいる」、高槻太鼓推進会

＜事務局＞ 事務局長 山下 みさき TEL06-6951-2066



岡山県支部

小山 寛支部長（倉敷天領太鼓代表）

平成20年度より皆様の仲間に入れて頂きました財団法人日本太鼓連盟岡山支部でございます。

前々から加入勸奨を受けておりましたが、この度ゆふいん源流太鼓代表の長谷川義様より強い要請があり入会させて頂く事になりました。

これから皆様方のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

＜加盟団体5チーム・会員数125名＞

ふじた傳三郎太鼓、児島瑜加太鼓、倉敷童太鼓、

ふじた傳三郎太鼓童太鼓、倉敷天領太鼓

＜事務局＞ 事務局長 河原 寛 TEL086-296-2225（岡山南商工会）



香川県支部

石井 修三支部長（善通寺龍神太鼓代表）

平成20年4月1日付にて承認をいただきました、香川県支部でございます。

四国は四県ございますが、香川県を皮切りにまもなく徳島県が続くと思われまます。香川県内、子供太鼓も含めると60チームが競い合っています。今回の設立は私の門下チームばかりでございますが、徐々に他チームの入会のきざしも見えてきています。

新参者ではございますが、諸先輩方のご指導を仰ぎ連盟の名を汚す事のない様、香川県支部一丸となる所存でございます。

皆々様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

＜加盟団体6チーム・会員数73名＞

善通寺龍神太鼓、響屋、鴨川福神太鼓保存会、大野原龍王太鼓保存振興会、仁尾竜翔太鼓保存会、女流和太鼓響音

＜事務局＞ 事務局長 川江 秀樹 TEL0875-74-7421



新たに徳島県支部が開設

6月13日に開催された第22回理事会において、香川県に引き続き、徳島県支部(中西渉支部長)の開設が承認されました。これで41都道府県に45支部が設置されました。

ジュニアコンクール予選、推薦の結果報告は11月末締め切り!!

2009年3月22日(日)静岡県浜松市で第11回日本太鼓ジュニアコンクールが開催されます。支部事務局は11月末日までに予選実施報告書・出演団体推薦書・出演申込書を提出して下さい。課題曲は全チームが確定後、年内に一斉に配布致します。また予選のない地域で出場を希望される団体は、財団事務局までお問い合わせ下さい。